

平成30年度木更津市社会教育委員会議第3回定例会 会議録

- 1 会議名 平成30年度木更津市社会教育委員会議第3回定例会
- 2 開催日時 平成30年12月19日(水)午後3時～5時
- 3 開催場所 木更津市役所朝日庁舎 会議室A1
- 4 出席者名
委員：佐藤千明、鉢村美幸、平田和世、榛澤敦子、板垣 勲、安藤順子、白石和義、
城戸富貴、鶴岡俊之、橋本ミチ子、蘇我芳章、地曳昭裕、内田慎一郎、石村比呂美、
熊本秀樹(15名)
事務局：高澤茂夫教育長、岩埜伸二教育部長、秋元淳教育部次長、野口琢郎生涯学習課長、
鈴木和代副主幹、木村容子副主幹、秋川裕也事務員(7名)
- 5 協議事項
 - (1) 各種審議会・協議会報告について
 - (2) 第53回千葉県社会教育振興大会について、
及び第49回関東甲信越静社会教育研究大会長野大会について
 - (3) 平成31年成人式について
 - (4) 社会教育施設(公民館、図書館、博物館)の現状と課題について
 - (5) その他
- 6 会議の公開・非公開の別及び傍聴人の数 諮問答申のみ非公開 傍聴人0名
- 7 資料
平成30年度社会教育委員会議第3回定例会次第
平成30年度社会教育委員会議第2回定例会概要
平成31年木更津市成人式の開催について

8 会議の内容

事務局 これより平成30年度木更津市社会教育委員会議 第3回定例会を開催いたします。本日は、委員18名中、15名の出席であり、欠席は3名であります。従いまして、社会教育委員会議運営規則第3条第2項の規定により、委員の2分の1以上の出席がございますので、本日の会議は成立しております。

なお、本会議は、木更津市審議会等の会議の公開に関する条例により公開されております。本日の傍聴人はおりません。以上報告いたします。

それでは、最初に内田議長からご挨拶をお願いいたします。

内田議長 皆さんこんにちは。本日は師走のお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。この社会教育委員会議も3回目を迎えました。前回は、公民館長、図書館長、博物館副館長、文化課長をお招きしてご意見を頂きました。本日は公民館のを中心、皆様方と議論を交わしたいと思います。よろしくをお願いいたします。

事務局 続きまして、高澤教育長よりご挨拶を申し上げます。

高澤教育長 皆さんこんにちは。大変お忙しい中、平成30年度社会教育委員会議、第3回定例会へご出席いただき誠にありがとうございます。

前回の定例会からこの間、各地区文化祭にはじまり、生涯学習フェスティバルやオーガニックフェスティバルなど、教育委員会はもとより、本市関連のさまざまな事業が行われてまいりました。どの事業も盛況のうちに終了いたしました。社会教育委員の皆様におかれましては、さまざまな形でご協力いただきましたことにお礼を申し上げます。

さて、昨日、12月議会が終了いたしました。今回は、16人の議員がご登壇され、その内9人の方から、教育委員会に対して質問を頂戴したところでございますが、このことは、教育問題に関心を持っていただいているということであると思っております。社会教育関連については、2点大きなことが出ております。1点目は、「公民館有料化の影響について」、2点目は「中央公民館の仮移転後の状況について」などのご質問を頂き、ご答弁させていただきました。

本日の定例会では、前回に引き続き、社会教育施設、今回はとりわけ、公民館についての現状と課題をご協議いただきたいと思いますと考えておりますので、忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

今日は、会議の後に、公民館運営審議会との合同祝賀会・忘年会のご案内をいただいておりますが、11月6日に、平成30年度木更津市教育功労者表彰を地曳昭裕委員、吉田裕子委員が、また11月18日に、生涯学習フェスティバル式典で、平成30年度生涯学習功労者表彰として、板垣 勲委員、白石和義委員、鶴岡俊之委員が、受賞されておりますので、この場をお借りして、これまでの本市教育にご尽力頂きましたことへ感謝申し上げますと共に、お祝い方々皆様にもご報告させていただきます。

それでは、本日もどうぞ、よろしくをお願いいたします。

事務局 ありがとうございます。協議に入る前に資料の確認をお願いいたします。

資料確認

事務局 では、今後の進行につきましては、木更津市社会教育委員会議運営規則第2条第4項により議長をお願いいたします。それでは内田議長よろしくをお願いいたします。

内田議長 それでは、協議事項（1）各審議会・協議会の報告です。

各審議会、協議会に委員としてご出席いただいている皆さんから、報告事項があれば

ばよろしく申し上げます。まず、青少年問題協議会委員の橋本委員、いかがでしょうか。

橋本委員 千葉県発達障害者支援センターの方による発達障害に関するお話がありました。自分の子どもが発達障害ではなくても、聞いてもらいたいお話でした。とても分かり易い内容だったので、公民館事業でもこのようなことを取り上げれば良いと思いました。

内田議長 生涯学習フェスティバル実行委員、白石委員、いかがでしょうか。

白石委員 フェスティバル当日は天気もよく、多くの来場者がありました。前日準備や当日の片付けはスムーズに行われました。

内田議長 ありがとうございます。

続きまして、協議事項(2)「第53回千葉県社会教育振興大会について及び第49回関東甲信越静社会教育研究大会長野大会について」、私の方から報告させていただきます。

まず、「第53回千葉県社会教育振興大会」ですが、11月9日に千葉県総合教育センターで行われました。私を含め5人の委員がご参加しました。文京大学学園理事長の野島氏の基調講演、事例発表、分科会がありました。分科会ではグループに分かれ語り合いの時間がありました。限られた時間ではありましたが、有意義な研修だったと思います。

「第49回関東甲信越静社会教育研究大会長野大会」ですが、当日の資料集を購入してまいりましたので、後ほどご覧ください。残念ながら富津市は参加することができませんでしたが、木更津市、君津市、袖ヶ浦市の3市の社会教育委員会議の会長で参加してまいりました。東京大学の佐藤一子氏の基調講演の後、パネルディスカッションが行なわれ、これらを受けて、翌日の分科会では前日のパネラーの方々がコーディネーターとなって進められました。全体を通してとても良い機会でした。

それでは、次に協議事項(3)平成31年成人式について、でございます。事務局よりご説明をお願いいたします。

事務局から説明

内田議長 この件について、ご意見、ご質問等ある方はお願いします。

意見・質問なし

ないようでしたら、次に協議事項(4)「社会教育施設(公民館、図書館、博物館)の現状と課題について」でございます。事務局よりご説明をお願いいたします。

事務局から説明

内田議長 「社会教育施設(公民館、図書館、博物館)の現状と課題について」、事務局よりご説明がありました。第2回定例会では博物館、図書館を中心にご意見を伺いましたので、本日は主に公民館について協議してまいりたいと思います。ご意見をいただきましたと思いますが、いかがでしょうか。

蘇我委員 全国的に見て、4市の社会教育は一步進んでいると私は思っています。少子高齢化などの問題は、木更津市だけでなく全国的な問題です。木更津、君津、富津、袖ヶ浦という4市は社会教育において、非常に連携が取れているので、もっと公民館同士で交流をし、良い事業があれば見に行くなど、行政の垣根を越えた活動をする事によって、住民のニーズに応じていくようにしていくべきではないかと思えます。広域に

スクラムを組むことによって弱点を強みに変えられるのではと思います。

もう一つは、これまで公民館長さんとお話をする機会の中で、一つの公民館では、予算や参加者を集めることに限界がある、という意見がありました。近くの公民館同士で合同にするなど、この地域の強みを活かして、もっとネットワークを広げて住民の期待に応えられるような社会教育を進めていけると良いと思います。

鶴岡委員

公運審の会議の中で、公民館文化祭の話が出ましたが、共通して言えるのは、公民館がいかに関地域の社会教育のために、自治会はもちろん消防団や婦人会、青年会等の地域の各団体を巻き込んで、社会教育の核となっているかということです。地域が一体となって文化祭を盛り上げているということが確認できました。

また、公民館に関しては、公運審としていくつか話題になったことをお話します。1点目は、地域の社会教育の核であるという公民館のあり方ですが、金田公民館が今年度で廃止されるということで、金田地域の社会教育を低下させずに維持するための社会教育主事配置について、また、そのことに関連して、重点施策に専門職員による学習支援体制の整備とあるのですが、社会教育主事の育成、配置が課題なのかなと思います。

2点目として、再配置計画を踏まえて、「8地区」という数字が出ていて、当然8公民館にするということではないということですが、中央公民館については第一中学校との複合化も想定されています。将来的に公民館と学校の複合化ということになると、公民館だけのことではなく、学校の耐用年数なども含めて協議していかなければならないことなのではないか、ということです。

3点目は、今後公民館も指定管理になっていく可能性があると思いますが、指定管理になるとどうなるのかというイメージが全く湧かないので、実際に指定管理になっている地域、或いは学校との複合化をしている地域があれば視察したい、という話がありました。

橋本委員
事務局

現在、社会教育主事有資格者は、公民館には何人配置されていますか。

市内16公民館のうち、富岡公民館を除くと社会教育主事が配置されていないのは鎌足公民館のみとなっています。他の公民館には、社会教育主事有資格者が1人以上配置されています。公民館全体では、非常勤や再任用を含めて、16名の社会教育主事有資格者がおります。

なお、「社会教育主事」は教育委員会事務局に置くもので、公民館の社会教育主事有資格者は「社会教育主事」発令を受けているものではありません。

蘇我委員

新しく社会教育主事有資格者を採用しないと、いずれいなくなってしまう。定年退職後、再任用等で活躍していただけるのは良いことですが、やはり、常にサイクルでまわしていかなといけないと思います。

熊本委員

先ほど、指定管理者の事例を見たいという話がありました。木更津市にも「みらいラボ」というも指定管理の施設があります。「みらいラボ」は非常に良い状態で運営されていると思います。利用者とは指定管理者の垣根がなく、良い感じ。良い参考になると思います。利用者も多いです。

内田議長
地曳委員

実は、今のお話に出ていた視察ですが、来年度には実現したいと企画しています。

木更津市の公共施設再配置計画は絶対的なものなのですか。それとも、教育委員会と協議を重ねて修正をすることは可能なのでしょうか。

岩埜部長

再配置計画については、今後、実行プラン等を検討していく中で、修正される部分

はあると思います。

地曳委員 市は、公共施設を減らしていこうとしているにもかかわらず、第2給食センターを建設することが決まっていますし、800人規模の中規模ホールなど新しく建設する計画もあります。そういうところがよく分からない。

高澤教育長 再配置計画はありますが、市として必要なものは作っていくという考えがあります。小中学校も耐震工事は終わっていますが、老朽化は避けられません。10～15年でほとんどの学校が耐用年数を迎えます。その時に、公民館の老朽化と合わせながら複合化をしていくという考えを持っています。これは全国的な動きです。先進的なところでは、幼稚園や保育園、小学校との複合化をしているところもあります。再配置計画は30年間の計画なので、長いスパンの中で時代に合わせて見ていくこととなります。将来的に公民館や学校の数が減っていくかもしれませんが、市民にとって必要なものは作っていきましょうという考えは持っています。

地曳委員 私が聞いたところによると、アカデミアホールを利用すれば良いという意見に対しては、アカデミアパークは遠いので、新しくホールを造るということだそうです。そこが私には良く分からない。これからの30年で施設などは複合化していくのでしょうか、人材も含めてソフトの面も考えていかなければならない。公民館が減り、複合化していくことを考えると、専門職の育成や採用にはつながっていかないのではないかという懸念があります。博物館も同様です。何かすっきりしない。

内田議長 皆さんも地曳さんと同じ思いがあると思います。やはり、施設の複合化などや専門職の育成、人材配置は、総合的に考えていく必要があるということだと思います。

高澤教育長 今のお話は、公民館と学校が複合化になると、公民館に職員配置がなくなることをご心配されているということですか。

地曳委員 金田の例もありますから、そういうこともあります。金田地域交流センターとなって公民館ではなくなり、管理が教育委員会から市民部に移っていくわけですから。

高澤教育長 複合化というのは、今ある学校に公民館が入るわけではありません。学校と公民館の役割は違いますし、導線も分ける必要があります。ですから、複合化されたとしても、学校には教員がいて、公民館には社会教育主事がいて、という形にならなければいけない。

現状の学校と複合化に、と言われますが、現状で、余裕教室が1階にあるということはないです。あっても2階、3階です。そこに公民館機能を入れることは不可能です。ですから、今の建物で複合化することはできません。学校の老朽化に合わせて、複合できるように建て直す必要があります。

鶴岡委員 視察の話がありますが、県内など近いところで複合化をしているところはあるか。

事務局 県内では学校と公民館が複合している例はないのではないかと思います。埼玉県志木市に小学校と公民館が複合しているところがございますので、視察できればと考えております。

内田議長 来年度に向けて、視察の計画を進めていきたいと思います。やはり複合化や指定管理者など事例を実際に見たほうが良いと思います。

橋本委員 社会教育主事が何をやっていくということが、とても重要だと思います。そのための研修を主事（職員）の中でどの程度やっていくのが大事だと思います。地域課題をきちっとつかんで、それを解消できるような、ある程度の人材を育てなくてはいけ

ない。育てるための勉強をする場所が公民館だと思うので、そのあたりをどのように主事（公民館職員）が身に付けていくのか、ということが課題だと思っています。

私たちは、どちらかという過去に生きているわけです。未来の話をするときには小学生の子どもを持つお母さんとか、できれば子どもたちの中からの発案で何か拾い上げられるような公民館事業が生まれてくることが良いのではないかと思います。

今の公民館を見ていると、一部の人たちが同じメンバーでずっと活動しているという様子が見えます。先日、ある公民館で東京から講師を招いて講演会をしていました。とても良い内容の講演会だったのですが、その先がつながっていかない。その地域では、若い人たちが意見を言えるチャンスがどれくらいあるのか、その意見をちゃんと吸い取る仕組みが地域の中にあるのだろうか、ということが気になりました。過去に生きている人たちの「昔はこうだった」で終わってしまって、若い人たちの「地域のために何かをしよう」とか、「住み良くするために、こんなことがしたい」という意見が出てこないという気がします。そのような課題を拾い上げて育てていけるような職員体制を作りたいと思います。

事務局

公民館事業では、趣味的講座ばかりではなく、例えば住民会議等で子どもたちが考えて地域の大人と一緒に事業を作り上げていくという活動もあります。ただ、公民館がそのような事業を行っていることが見えにくいということがあるのかもしれませんが、実際の事業展開が、皆さんの想定しているレベルに届いていないのかもしれませんが、また、研修については、公民館職員が学ばなければ、住民と共に事業を作ることはできないので、職員は学び続けなければいけないと私も思います。実際に、公民館職員の中での研修は行なっています。先ほど4市で連携というお話もありましたが、君津地方4市は、社会教育委員もそうですが、職員同士も横のつながりはあります。4市の公民館職員の研修会もありますし、公民館だけではなく、学芸員や図書館職員も一緒に研修をしています。

地曳委員

社会教育主事などの資格がなくても、公民館の仕事に興味があるという一般職員も、希望があれば、公民館等に配置することは可能なのでしょうか。

岩埜部長

可能です。もちろん、毎年、社会教育主事、学芸員、図書館司書採用の要望は出しているところです。また、一般職で公民館に配属された後、社会教育主事の資格を取得した職員もいます。

地曳委員

各公民館事業を見ますと、斬新性に欠けていると思います。どこの公民館でも同じようなことをやっている。面白くないと思います。やらなければならない基本のところはあるのでしょうか、新しいことができる人材を公民館に配置するようなシステムを大いに期待します。

熊本委員

岩根公民館では、若い弁護士、薬剤師、介護に携わっている方たちが、地域の相談事を受ける活動をしています。そこには、町内会長さんなども集まっていて、とても新しい公民館の使い方だと思いました。また、波岡公民館で行なっている子ども食堂では、清和大学や木更津高専の学生が子どもたちに勉強を教えたり、一緒に遊んだりしていました。若い人たちが公民館に来るようになっているのは、公民館職員の努力もあると思います。公民館を使いやすくしようということが感じられます。「公民館が変わるかな」という予感がします。

蘇我委員

もし複合化するならどうするべきか、ということを公運審や社会教育委員で、考えていく良いチャンスだと思います。皆で話し合って、ここは譲れない、ここはこうし

たい、ということをお運審にも先頭に立っていただいて、良い芽はたくさん出ているので、それを上手くつなげていければ、時代に合った社会教育の拠点づくりができるのではないかと思います。

佐藤委員 学校教育も開かれた教育のため、地域との様々な連携をと考えていくと、公民館の事業は大きなものとなっていると思います。公民館の数が少なくなると、学校との距離が遠くなり、身近な関係づくりが築きにくくなってしまっているのではないかと思います。

鉢村委員 一つ難しい問題と感じていることは、複合化して、学校が外に開かれた場合、施設にいろいろな人が入ってくるという安全性の問題です。地域に出て行きたい、地域からも受け入れたい、連携したい、学校教育はそういう場所でありたいと同時に生徒の安全性も確保していかなければならないと思います。

平田委員 安全性の確保ということ言えば、今回、清和短大の校舎が新築されましたが、短大生だけが使う場所にはセキュリティを入れました。

私は社会教育委員として会議に出る中で、感じたことをできる限り学生に伝えたいと思っているのです。学習支援ボランティアなどを行っている意識の高い学生もいますが、大半はアルバイトなどで忙しく、ボランティアや社会的活動に参加する学生は少ないです。今だから出来ること、経験すべきことだと思い、話を持ちかけてもなかなか動かないことが多いです。

石村委員 若い人が集まる公民館は良いと思います。先日、金田公民館のカフェに行きましたが、若いお母さんや子どもたちがたくさんいました。地元の方がコーヒーやおやきを出してくれていて、すごく良かったです。若い人がたくさん来る公民館にするにはどうしたら良いのだろうと考えますが、やはり時代のニーズにしっかりと応えていく必要があると思います。

また、行政区は違っても生活圏が同じであるかずさ4市の公民館同士、交流を深めていくことは必要だと思います。これから、若い人が興味を持ってくれる公民館がどんなものか、私も考えていきたいと思っています。

安藤委員 朝日庁舎もイオンとの複合施設になっています。このような木更津市の柔軟な対応は素晴らしいと思います。また、スパークルシティ6階の自習スペースでは、大勢の学生が勉強していて、施設を有効に活用出来ていて良いと思います。

板垣委員 一般的に公民館は敷居が高いイメージがあると思います。図書館や博物館は気軽に行くことが出来ますが、公民館は用事がないと行けない方が多いと思いますので、入り易い雰囲気を作ることが大切だと思います。また、公民館は単なる貸し館になってはいけないと言われていますが、きっかけとしては貸し館でも良いと思います。その中で公民館を知ってもらえれば良いと思います。

榛澤委員 鎌足公民館に社会教育主事はいませんが、かまフェスはとても盛り上がっていたので、社会教育主事がいなくても良いのではないかと思います。

橋本委員 かまフェスは、新しく引っ越して来た人もうまく取り込んでいました。

石村委員 かまフェスは、かずさFMの「どこでもラジオ」で生放送をしました。また、4市の新成人の方にもラジオにも出演していただきました。さらに、少年少女の主張大会の小学生20名の発表を放送しています。

白石委員 先日、公民館文化祭を視察しましたが、どの公民館も地域性があり、地域の歴史の展示や、いろいろな分野で卓越している方の作品など素晴らしいと思いました。それぞれの地域や公民館の優れているものを広く情報発信できると良いと思います。

城戸委員 金田地域交流センターについては、公運審委員や社会教育委員が指定管理者の方たちと話すことができたなら良いものができるのではないかと思います。

金田公民館にも良く行きますが、最近はコミュニティカフェにも参加しています。

私は金田地区に転入してきた当時は、何もわからなくて公民館に通い始めましたが、最近金田に引越しされてきた方が、地域を知りたいから公民館に行く聞いて、私と同じだと嬉しくなりました。公民館としてこれだけは外せないという部分は大事だと思いますが、固定観念に縛られないで、自由な発想で考えても良いと思います。

内田議長 ありがとうございます。本日いただいた意見・協議を次回の定例会でさらに深めていくことが出来ればと良いと考えております。

では、(5) その他ですが、事務局よりお願いいたします。

事務局より報告

内田議長 他に無いようでしたら、以上を持ちまして、「平成30年度社会教育委員会議第3回定例会」を閉じさせていただきます。皆様の協力で本日の定例会を無事終了することができました。ありがとうございました。

事務局 長時間にわたり貴重なご意見をいただきありがとうございました。

また今後とも、本市の社会教育活動推進のため、委員の皆様にはなお一層のご支援ご協力をお願いいたします。